



# 新藤 義孝大臣と日本のスタートアップを考える

令和6年度の「ICTスタートアップリーグ」がスタート！日本のスタートアップについて新藤義孝スタートアップ担当大臣と、ICTスタートアップリーグを支援、応援するメンバーによる特別座談会の模様をレポート。

文 川上純子、撮影 曾根田元



経済再生担当大臣  
新しい資本主義担当大臣  
スタートアップ担当大臣  
**新藤 義孝**

## 「重要なのは、経済を推進するスタートアップの飛躍的拡大」

日本の未来を占う  
スタートアップ成長

福田正（※以下、福田）…日本は1990年代以降、「失われた30年」といわれる経済停滞が続いてきました。しかし、丁寧に見ていくと30年間で、日本でもいろいろなスタートアップが誕生しています。ただ、スタートアップが大きく成長する環境の整備の面で出遅れている印象があります。今回は経済再生、新しい資本主義、スタートアップ担当大臣である新藤義孝大臣と交え、日本のスタートアップをもっと活性化するためには何をすべきかを議論したいと思います。

新藤義孝大臣（※以下、新藤）…スタートアップ担当大臣という立場で現状を把握していますが、現実として、日本では魅力的なスタートアップが多数生まれています。また、オリジナルでクリエイティブなコンテンツづくりも広い意味でスタートアップといえますが、マンガやアニメを始め、日本のコンテンツは世界的に人気です。でも、全体として停滞感を感じるのには、そうした「芽」を育てる大きなムーブメントが足りないからではないかと思っています。新たな経済政策を打ち出す際には、国民全体のムーブメントにしていかなければなりません。スタートアップについて国民の共感を得ながら、しっかりと盛り上げていきたいと思っています。例えば、大人だけでなく子どもまでもが「スタートアップって面白そうだな、自分もやってみよう」と思うような気運を醸成していききたい。日本社会が総力をもって取り組めば、きっと大きな推進力が生まれるはずですよ。この推進力を支えるという意味で必要なのは「知らせる力」ではないか、と考えています。

福田…スタートアップを盛り上げようという気運を社会に広げる力と、面白さを伝える力。この2つの力が十分でなかったとも言えますね。

新藤…コンテンツでも同じです。日本映画は戦後、長い間高い評価を受けてきました。国際的な賞を獲得したり海外でヒットする作品はいくつもありません。しかし、グローバルな映画ビジネスを席巻しているのはハリウッドです。日本はピンポイントで良い作品が登場しても、「日本映画」としてのプレゼンスは発揮できていない。創り出したビジネスや作品の魅力を伝えることにもっと注力すべきタイミングが来ていると感じています。

失われた30年の間は「現状を維持しない」という発想が先に立ち、「今のレベルを維持するため削られるところは削り、無駄を省こう」という消極的な空気が支配的でした。しかし、今こそ再び動き始めるタイミングが巡ってきたのだと思います。スタートアップを改めて盛り上げようという気運が盛り上がっている。これは時代の要請です。であれば、あらゆる手段を講じてこの気運を伝え、広め、盛り上げなくてはなりません。

福田…伝える点で、メディアの役割は重要です。日本のコ



## 日本から世界へ！成長や競争を支援

樋口…そうした発想は必要ですし、取り組みたいと考えています。もっと日本が「束になつて」取り組むと、日本ならではの魅力がより明快に打ち出され、より多くの国に強みを広げられると思います。

福田…日本の強みを海外発信するメディアとして出版も重要です。例えば、学術研究は論文が影響度（インパクト）の高い学術誌（学術ジャーナル）に掲載されることで評価され、広がります。ところが、インパクトが大きいのは欧米の学術誌ばかり。逆の向き、つまり日本の研究論文を海外発信する施策はどうでしょう。

加瀬典子…実際、日本の論文も掲載したいという要望は強くありますし、先端的な技術や研究もたくさんあるのですが、海外の学術誌1誌に1本掲載されるケースが散見されるという状況で、「日本の研究はすごい」という全体的な印象を与えることはできていません。個々の研究という



一般財団法人 UPDATE EARTH 理事長  
**福田 正**



株式会社角川アスキー総合研究所 代表取締役社長  
**加瀬 典子**

「点ではなく、「日本で行われている研究全体がすごい」という面的広がりをもって打ち出していけるようにしたいです。

前田善宏（※以下、前田）…日本がもつ強みのひとつはアニメやマンガなどの知的財産（IP）ですが、人気に見合うほどの利益を得られていない。流通するプラットフォームが日本のもではないからです。例えば、日本有数の強力なコンテンツである『ドラゴンボール』も、映画化を手掛けたのはハリウッドです。アニメは日本制作ですが、海外配信は海外プラットフォーム経由、日本製プラットフォームごと海外に打ち出せたら、という思いは強いです。オールジャパンの取り組みとして、政府に後押ししていただけたらと考えています。

新藤…日本は1億2000万人の人口と、市場としてそれなりの大きさがあります。それゆえ、これまでは国内市場を押しさえれば、ビジネスもまずまずの規模が得られました。しかし、この30年間でイン

ターネットが登場し、ビジネスが瞬時に国を越える時代になりました。残念ながら、日本はこの状況にきちんと追いついてきたとは言えない状況です。しかも、日本市場自体が少子高齢化により、長期的な縮小傾向にあります。これが失われた30年の実情です。これからは世界を相手にすることを、国の戦略としてやっていかなければなりません。

この30年で、世界を席巻する企業の顔ぶれは一変しました。時価総額ランキングの上位には、30年前には影も形もなかった企業が多数あります。これらはみな、30年の間に登場したスタートアップです。日本にとって重要なのは、現在のトップ企業の発展に加え、新しい経済ステージへの推進エンジンとなるスタートアップの飛躍的拡大です。

前田…欧米と比べると、新卒あるいは20代のうちからスタートアップを志向する人はまだ少ない。一方、若者が日常的に使うアプリやサービスの大半はスタートアップ発です。しかし、普段使うメルカリが



株式会社フジテレビジョン 編集制作ビジネス推進担当 執行役員  
**樋口 薫子**

スタートアップだとは知らない。これはもったいないです。スタートアップのエキサイティングなビジネスに、小中学生が憧れる社会にできれば。

新藤…2019年からGIGAスクール構想が始まり、全国の児童・生徒に1人1台のコンピュータ（タブレット）と高速ネットワークの整備が進みました。ほぼ100%に近い整備が完了した今こそ、子どもたちの意識を変えていく機は熟していると思います。

福田…以前は、情報通信技術（ICT）を志す人はシリコンバレーのスタートアップを目指しました。一方で、現在インバウンドで海外から人が押し寄せています。日本が面白いと思うところは、想像以上にたくさんあります。逆に、日本人のほうが日本の魅力や強みに目を向けていないんです。日本の若者が「スタートアップの夢は、米国ではなく日本にある」「これからはジャパニーズドリームだ」と思う社会に変える潮目だと思います。



デロイトトーマツ グループ 執行役 戦略・成長担当 CGO/CSO  
**前田 善宏**

## ICTスタートアップリーグとは？ 公式サイト <https://ict.startupleague.go.jp/>

- ICTスタートアップリーグは令和5年度からスタートした、総務省「スタートアップ創出型萌芽的研究開発支援事業」を契機とし、総務省とスタートアップに知見のある有識者、企業、団体などの民間が一体となり、ICT分野におけるスタートアップの起業と成長に必要な支援と競争の場を提供するプログラムです。
- 出資とリターンを求めるだけの支援ではなく、中長期ビジョンという観点で、
- 伴走支援や人材紹介、そして国費によるサポートを行う「支援」
  - VCのマッチングやピッチの機会を用意し更なる飛躍をサポートする「出資」
  - 自身のビジネスに磨きをかけるための「競争」
  - 取組を多くの人に知ってもらい、応援者を増やし、またスタートアップへの憧れを醸成するための「発信」
- の4つを軸にスタートエコシステムを構築し官民一体となってリーグとして支援を展開します。

